

## 特別シンポジウムCS03

日本薬学会製薬工業協会企画シンポジウム

「創薬における幹細胞研究の動向—iPS細胞の企業利用を中心として—」

座間 富明<sup>1</sup>，大谷 章雄<sup>2</sup>

<sup>1</sup>製薬協研究開発委員会専門委員長，<sup>2</sup>製薬協研究開発委員会専門副委員長

幹細胞研究の進展はめざましいものがある。特に iPS 細胞の創製は、細胞治療/再生医療への期待だけでなく、分化誘導した機能性細胞や疾患特異的な iPS 細胞を利用した新たな創薬ツールをも提供しようとしている。しかしながら、iPS 細胞を医療や産業応用するためにはいくつかの課題があることも明らかになってきている。こうした課題を克服するために、現在、日本と米国を中心に iPS 細胞創製メカニズムの解明、創製技術、様々な細胞への分化誘導技術等の iPS 細胞そのものにフォーカスした研究開発が活発におこなわれている。

本シンポジウムでは、iPS 細胞研究の創薬ツールとしての活用をテーマに企画した。まず、水口先生にヒト iPS 細胞を用いた新規毒性評価系の構築に関わる研究の進捗を中心に講演頂き、次いで、実際に企業としてどのような創薬技術に応用できるかといった観点から武田薬品工業（株）中西先生にお話を頂き、最後に心筋へ分化誘導した細胞の安全性評価への応用例について（株）リプロセルの浅井先生に紹介頂く予定である。